

# キャリアパスポートからとらえる今後の学校教育の方向性

## ——「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」の 授業を通して——

山本 信幸\*

キーワード：キャリアパスポートで振り返る足跡、自己のキャリア形成、小中高校で一番心に残っている思い出、キャリア教育で伸ばす資質・能力、令和の日本型学校教育、学習指導要領の内容見直し、今後の学校教育の方向性、特別活動の着実な実施と時間確保、校内部活動の推進

教職課程科目「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」の授業において、キャリア教育の展開にキャリアパスポートを活用している。小中高校の自己の足跡を振り返るポートフォリオであり、指導者として児童生徒の指導をするにあたり、「指導者が書けないことを児童生徒に強いてはならない。児童生徒が書く内容を想定するために指導者の立場から書いてみる必要がある」と指導し、学生に書かせている。その内容を授業で発表させているが、時間の都合で学生全員の発表はできなく、全体としての傾向をとらえることができなかった。今回、学生が振り返った小中高校の思い出項目を集計し、学生にとって自己のキャリア形成に役立った中高校の思い出が何であったのかを振り返る集計調査を実施した。

そして、本稿では、日進キャンパスと名城公園キャンパスの学生（令和4年度92名、令和5年度134名）226名と他大学（令和5年度3つの大学）139名、計365名がキャリアパスポートに記載した内容を検証し、文科省の方針である「令和の日本型学校教育」の方向性と関連付けて論じる。

### はじめに

「私は小中高校でいじめをされてきて、学校では泣きませんでした、家でよく泣いていました。いじめてくる子たちから、いつも幸せそうで見るときにイライラする、と言われてきました。何でそんなことを言うのだろうと嫌で悩みました。家に帰ると、母がいじめた子たちをすごく怒っていました。父母が、何かあったら家に帰っておいで。学校のことは先生に言うことしかできないけれど、家では一番幸せにしてあげるから。幸せにするために産んだのだからと、言われたのを思い出しました。学校でどんなに仲間外れにされ

\* やまもと のぶゆき 教職支援センター 本学非常勤講師

でも、家には優しくて頼れて、私を一番気にかけてくれる両親がいたから、辛かったけれど、何とか乗り越えることができたのかなと思っています。誰かひとりでも本当に頼ることや信頼できる人がいることや自分の居場所があることが、生きていくのに大切なのだと実感しました」。

これは、いじめを扱った授業後のK（文学部2年）さんの感想の一部であるが、筆者が義務教育現場に勤務していた頃、教師としてこのような児童生徒に気づかず、支援することもなく見逃してきたのではないかと自戒し、胸が痛んだ。その数週間後の授業で、文科省がキャリア教育で活用する目的として資料提示しているキャリアパスポートに自己の「小中高校時代に一番心に残っていること」と「そのことが今の自分の成長にどのような役立っているのか」を記載させる授業を行った。Kさんはキャリアパスポートにいじめのことを記載すると思い込んでいたが、「小学校→学級の係活動、中学校→部活動、高校→大学受験」と、いじめに触れていなかった。Kさんにとって学校はマイナスのイメージばかりでなかったのである。その思い出の振り返りが「今の成長にどう影響したか」については、「小学校→任されたことに責任をもって最後までやること、中学校→嫌なことがあっても一度やると決めたら最後までやる、高校→途中で諦めないこと」と記載していた。学校はKさんにとって辛い場所であったかもしれないが、キャリア形成を育む場所でもあり、また自己のキャリア形成に役立つ教育活動が学校に存在していたのである。

そこで、キャリアパスポートに記載された小中高校の振り返りの足跡から、キャリア形成に役立つ教育活動が何であったのかを調査しようと思いついた。その検証結果を文部科学省の方針である「令和の日本型学校教育」と調査結果を関連付け、今後の教育改革のあるべき方向性を論じていく。

本稿では、日進キャンパスと名城公園キャンパスの学生（令和4年度92名、令和5年度134名）226名と他大学（令和5年度3つの大学）139名、計365名の記載項目をデータとして使用し、それを今後の教育改革のあるべき方向性の根拠とする。

## 1 「キャリアパスポート」を授業内に取り入れる根拠

### (1) 学級活動及びホームルーム活動(3)の指導に有効性のある資料

「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」の授業で、特別活動において学級活動（小中学校）及びホームルーム活動（高校）の内容に「一人一人のキャリア形成と自己実現」がある。キャリア教育の要に特別活動があり、学校、家庭及び地域における学習や生

活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活の意欲や将来を考える活動を通して、キャリア形成を図っていく指導法を解説している。その際、児童生徒が記載したポートフォリオ形式のキャリアパスポートに、小学校1年生から高校3年生までの12年間の活動記録を蓄積していく。教師は、その記録に対してコメントや面談によってフィードバックする支援をしていく。児童生徒は、そこからキャリア形成の資質・能力である「①人間関係形成・社会形成能力、②自己理解・自己管理能力、③課題対応能力、④キャリアプランニング能力」を伸ばしていくことになる。

## (2) キャリアパスポートに記載することで児童生徒の立場を理解する必要性

キャリアパスポートは2020年度に文部科学省が提示した方針であったが、コロナ禍で実施が遅れ2023年度から多くの小中高校で活用されるようになった。つまり、キャリアパスポートの存在を知らない学生たちが多くのである。そこで、高校3年生のキャリアパスポートの一部を取り上げ、生徒の立場になって実際に記述させ、その後、生徒に強いることは教師もする必要性と、生徒の実態を予想して指導に役立てる展開方法を解説した。

授業で学生に記述させたキャリアパスポートの内容は以下の資料である。

小学校から高等学校までを振り返る					
○自分自身のこれまでを振り返って、「足跡」をまとめよう。				記入日	年
月	日				
(小学校)	一番心に残っていること	自分自身の成長にどのように影響したか			
		➡			
(中学校)					
		➡			
(高等学校)					
		➡			
○自分自身の「現在（今）」と「将来」についてまとめよう。					
	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力	
自分のよき面					
成長点					

活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活の意欲や将来を考える活動を通して、キャリア形成を図っていく指導法を解説している。その際、児童生徒が記載したポートフォリオ形式のキャリアパスポートに、小学校1年生から高校3年生までの12年間の活動記録を蓄積していく。教師は、その記録に対してコメントや面談によってフィードバックする支援をしていく。児童生徒は、そこからキャリア形成の資質・能力である「①人間関係形成・社会形成能力、②自己理解・自己管理能力、③課題対応能力、④キャリアプランニング能力」を伸ばしていくことになる。

## (2) キャリアパスポートに記載することで児童生徒の立場を理解する必要性

キャリアパスポートは2020年度に文部科学省が提示した方針であったが、コロナ禍で実施が遅れ2023年度から多くの小中高校で活用されるようになった。つまり、キャリアパスポートの存在を知らない学生たちが多くのである。そこで、高校3年生のキャリアパスポートの一部を取り上げ、生徒の立場になって実際に記述させ、その後、生徒に強いることは教師もする必要性と、生徒の実態を予想して指導に役立てる展開方法を解説した。

授業で学生に記述させたキャリアパスポートの内容は以下の資料である。

小学校から高等学校までを振り返る					
○自分自身のこれまでを振り返って、「足跡」をまとめよう。				記入日	年
月	日				
(小学校)	一番心に残っていること	自分自身の成長にどのように影響したか			
		➡			
(中学校)					
		➡			
(高等学校)					
		➡			
○自分自身の「現在（今）」と「将来」についてまとめよう。					
	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力	
自分のよき面					
成長点					

## 2 研究の方向性

### (1) キャリアパスポートの記載内容から教育活動の改善を見つめて

「はじめに」で紹介したKさんのいじめの思い出は、小中学校の教育現場に長年携わってきた筆者にとって胸の痛む内容であった。しかし、キャリアパスポートによる小中高校の一番の思い出がいじめではなく、係活動（小）、部活動（中）、大学受験（高）を挙げ、「やり抜く大切さが身についた」という自己評価をしていた。Kさんにとって、いじめは辛い思い出であっただろうが、学校での教育活動からキャリア形成を築き上げていることが分かった。それを受け、学生たちの小中高校の一番の思い出が何で、そのことがどのようにキャリア形成に役立ったのかを調査したい思いが高まった。さらに、その検証が今後の学校教育の改善への方向性がとらえられるのではないかと考えた。

### (2) 今後の教育改革の方向性と照らし合わせて

文部科学省から令和3年「令和の日本型学校教育」の構築を目指した方針が発表された。その概要を以下の5点にまとめることができる。

- ①急速に変化する時代の中で育むべき資質・能力の育成（学習指導要領の着実な実施、ICT活用など）
- ②日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動きについて（働き方改革、GIGAスクール、少子化と多様化など）
- ③2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿（アクティブラーニングやインクルーシブ教育システムなどの子供の学びとしての個別最適な学びと協働的な学びの実現、質の高い教職員などの姿、子供の学びや教職員を支える環境など）
- ④「令和の日本型学校教育」における「子供の学び」の姿について（学校マネジメントの実現、ICTと最適な組合せ、持続的で学びのある学校教育の実現など）
- ⑤「令和の日本型学校教育」の構築に向けたICTの活用（Society5.0の実現にふさわしい学校の実現、必要不可欠なICTなど）

これらの方針は、「デジタルかアナログか」「一斉授業か個別学習か」「オンラインか対面か」などの二項対立ではなく、どちらの良さも適切に組み合わせて生かしていく教育活動を取り入れていく方向性が示された。そこで、キャリアパスポートの「小学校から高等学校までの振り返り」に記載された内容の集計結果と「令和の日本型学校教育」の方針と照らし合わせることで、学校現場のPDCAサイクルを意識できた学校教育活動の改善に生かせるヒントにできるのではないかと考えた。

### 3 学生の記述したキャリアパスポートの内容

日進キャンパスと名城公園キャンパスの学生（令和4年度92名、令和5年度134名）226名と他大学（令和5年度3つの大学）139名、計365名の集計は以下の通りであった。

【小学校の項目と内容】

\*順位は10位まで表記

順位	一番心に残っていること	自分自身の成長にどのように影響したか (主なものと際立った内容の紹介)
1位 49人 (13%)	運動会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組み立てでみんなと協力する大切さを学んだ。</li> <li>・組立体操でけがをした人の役割をしたが、誰かの代わりに何かをする大切さを学んだ。</li> <li>・組体操で一人一人の役割と達成感を感じ、後の自分に大きく影響を与えている。</li> <li>・2学年の組体操で協力する大切さを学んだ。</li> <li>・大人数で組体操を完成させることから、子供なりに協力する大切さを学んだ。</li> <li>・組立体操で一人が欠けたら成立しない自分の存在の大切さに気付いた。</li> <li>・組体操で少し無理して成功させた達成感が段違い。</li> <li>・組立体操は全体のバランスが重要なので、全員が協力する姿勢を学んだ。</li> <li>・応援団長として仕事の役割を責任をもって最後まで取り組むことができるようになった。</li> <li>・応援団のリーダーをして、リーダーの難しさや大変さを知った。</li> <li>・4年のリレーで1位となり最後まで粘り取り組む大切さ。</li> <li>・小2のリレーで転んで泣きながら走ったけれど、失敗したり躓いたりしても途中で諦めない大切さを学んだ。</li> <li>・応援歌や応援ダンスを考え、先生に従うだけではなかった達成感があった。</li> <li>・学級の選抜徒競走で負け、負けず嫌いになった。</li> <li>・大人数でいろいろなことをすることが楽しかった。</li> </ul>
2位 47人 (13%)	友人関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と喧嘩をして、簡単に人を傷つけてしまうことを知り、言葉使いに気をつけるようになった。</li> <li>・毎日の休み時間に遊んだことで人と関わる楽しさを学んだ。</li> <li>・学童で友達とたくさん遊び、コミュニケーションの取り方を学んだ。</li> <li>・けんかの日々だったが、誰がいい人かを判断できるようになった。</li> <li>・友達と昼休みに外で遊び、友達と関わることを通してコミュニケーション能力が高まった。</li> <li>・友人関係のトラブルから、人とどう関わり自分はどうかと向き合うことができた。</li> </ul>
3位 39人 (11%)	部活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとつのことに打ち込む楽しさ。</li> <li>・上下関係の厳しさ、目上の人との会話の仕方を学んだ。</li> <li>・キャプテンとなって責任感がついた。</li> </ul>

<p>4位 30人 (8%)</p>	<p>学級活動 学級生活</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年間の学級委員から周りを見て行動する力がついた。</li> <li>・宿題を早く終わらせ遊びに行く。やりたいことをやるために、やらなければならないことを先にやること。</li> <li>・クリスマスパーティーで仲間の大切さや楽しさを知る。</li> <li>・毎月の誕生会などのお楽しみ会の企画運営をすることが楽しかった。</li> <li>・みんなで協力してやる楽しさ、やりがいを味わった。</li> <li>・学級崩壊を味わったが、それでも頑張ろうと思った。</li> <li>・係の仕事をしたことで、任されたことは最後まで責任をもってやることを学んだ。</li> </ul>
<p>5位 26人 (7%)</p>	<p>修学旅行</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼馴染と同じ班になったが先生から引き離された。しかし、「これだけは嫌だ」と伝え、自分の思っていることは意見として言えるようになった。</li> <li>・限られた時間でどう見学するかを計画する力がついた。</li> <li>・班決めで黙って困っていた時に、声をかけてくれてグループに入れてもらったこと。それ以来、自分から言い出すことを心がけている。</li> </ul>
<p>6位 22人 (6%)</p>	<p>児童会活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年生を送る会で、人へ感謝する大切さを学んだ。</li> <li>・児童会役員になり、自分の考えを発信、実行する難しさを学んだ。</li> <li>・飼育委員としてウサギの世話をしたが、自分の心の成長に影響を与えた。</li> <li>・飼育委員として、命の大切さや協力することを知った。</li> <li>・飼育委員でウサギの世話をしたが、ただかわいいだけでなく、生き物を育てることに責任があることを学んだ。</li> <li>・委員会活動で尊敬できる先生と出会えた。</li> <li>・図書委員長となったのが、中学高校のクラス委員や生徒会をやるきっかけとなった。</li> </ul>
<p>7位 21人 (6%)</p>	<p>先生との 出会い</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・真面目だった自分に「それじゃ人生楽しくないよ」と、力を抜くことを教えてくれ、そこから友人関係が良好となった。</li> <li>・2年間の担任で宿題に丁寧なコメントがあり、この先生のようになりたいと思った。</li> <li>・とにかく嫌いだった。先生のせいでクラスから仲間外れにあった。</li> <li>・転んだとき養護教諭が病院まで連れて行ってきて、養護教諭がかっこよく見えて憧れた。</li> <li>・担任の先生が途中で変わったことから、人それぞれ大変なことがあることが分かった。</li> <li>・通学帽子をかぶらずにいて叱られたが、秩序を守る必要性を教えてくれた。</li> </ul>
<p>8位 17人 (5%)</p>	<p>自然教室</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンプファイヤーでトーチをしたことで、練習を重ねればできることを経験した。</li> <li>・キャンプで自分のことは自分でやるきっかけとなった。</li> <li>・1人ではできないことを皆でできた達成感を味わった。</li> <li>・過去にない校内に泊まる活動が楽しかった。</li> <li>・時間を守る大切さを学んだ。</li> </ul>

キャリアパスポートからとらえる今後の学校教育の方向性

9位 14人 (4%)	学芸会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長いセリフの役に立候補し、人前で喋る大切さや努力することを学んだ。</li> <li>・先生と一緒に、みんなと共に作り上げる楽しさを学んだ。</li> <li>・自分の役割を果たす楽しみを知った。</li> </ul>
10位 11人 (3%)	授業関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題が早く終わると他の子に教えたことが楽しさになった。</li> <li>・自分たちが入れる小屋を作った達成感。</li> <li>・テストで100点を1回だけとって嬉しかった。</li> <li>・校庭の植物観察は自然と触れることができ楽しかった。</li> <li>・老人ホーム訪問を通して、自分の知らない言葉や物を調べ始めるきっかけとなった。</li> <li>・ナスやサツマイモなどを手がけ、農業の大変さを知った。</li> <li>・生活科で育てた野菜でカレーを作った。</li> <li>・恥ずかしがり屋で発言できなかったが、少しずつ頑張ることの大切さを知り、今では真逆になっている。</li> </ul>
	いじめ (10人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人に優しくできるようになった。</li> <li>・人間関係の作り方を学び、一人であることも悪くないと思えるようになった。</li> <li>・いじめがあったことに気づかず傍観者として加害者扱いを先生からされた。先生が必ずしも正しいわけではないこと、いじめは気づかないこともあることを学んだ。</li> <li>・周囲の病気に対する無理解から責められたが、必ず相手の立場や事情を把握し、一方的にしないと決めた。</li> <li>・いじめていた子の母親の手紙を先生が読み、心に効いた。相手の気持ちを考えるようになった。</li> <li>・心を痛めたので、いじめをしないと決めた。</li> <li>・先輩が自殺をして、死を身近に感じた。</li> <li>・いじめられて泣いていたら、過去に自分がいじめた子が話しかけてくれたことで、絶対にいじめはしないで人に流されないように生きようと思ったこと。</li> </ul>
	転校 (10人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初対面の人とも割とすぐに仲良くなれる。</li> <li>・コミュニケーションの大切さを学んだ。</li> </ul>
	マラソン大会 (9人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新記録と同タイムでトロフィーもらえず、悔しくて何事も本気で打ち込むことができるようになった。</li> <li>・毎朝や休み時間の練習で自信がつき、努力が結果に繋がるのが分かった。</li> <li>・嫌なことも逃げずに最後まで取り組むことができるようになった。</li> <li>・最後まで諦めなければゴールがあると思えるようになった。</li> </ul>
	学習塾通い (8人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県代表として珠算大会出場し、最初は嫌々でも結果的には好きになることが分かった。</li> <li>・友達作り、コミュニケーションの取り方を学んだ。</li> <li>・塾内でいじめられたが、人の気持ちが分かるようになった。</li> </ul>
	ピアノ練習 (7人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やり遂げる良さを学んだ。</li> <li>・校歌のピアノオーデイションに挑戦し、何かに挑戦する勇気をもらえた。</li> </ul>



卒業式 (7人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実行委員として積極性が身についた。</li> <li>・新しい環境に身を置いて頑張ろうと思えた。</li> <li>・みんなと協力する大切さ。</li> </ul>
縦割り活動 (5人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他学年の先生から褒められ、自信をもてるようになった。</li> <li>・楽しめる企画や実行が楽しかった。</li> <li>・他学年と交流することでコミュニケーション能力が身についた。</li> </ul>
中学校受験 (5人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色々な課題に対して適切に対応できるようになった。</li> <li>・挑戦する大切さを学んだ。</li> </ul>
給食 (3人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無理やり食べさせられたことで好き嫌いが多くなった。</li> <li>・人と会話する楽しさや好き嫌いがなくなった。</li> </ul>
夏休みの宿題 (3人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由研究をしたことで、分からないことを調べる習慣がついた。</li> <li>・毎日科学研究をして全然遊べなかった。</li> </ul>
けが・入院 (3人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陸上大会前にけがをし、大切な行事前にふざけないことを決意した。</li> </ul>
怒られたこと (2人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿題を提出しなかったが、提出物を出さないと後で悲しいことになることを知った。</li> <li>・連絡帳を1年間書かなかったことが見つかり、みんなの前で説教された。誰も見ていないと思っていても意外と見られていて、見られていないことにもしつかりやれるようになった。</li> </ul>
職場体験活動 (2人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなと協力し合うことで大きなことを成し遂げられることに気づいた。</li> </ul>
読書活動 (2人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感受性が豊かになった。</li> </ul>
その他 (各1人)	遠足、水泳教室、ダンス、ホームステイ、地域貢献活動、演劇鑑賞会、日記、早起き、親の離婚、秘密基地づくり、宿題

- ・宿題 (小4で宿題をやらず泣いていたら、先生が「あなたの涙は必要ない」と言われた。泣いて許されなく初めてしっかりと怒られ、課題は必ず提出するようになった。)
- ・親の離婚 (人生の方向性が変わった。)
- ・水泳教室 (嫌なことでも成功するまで頑張ること。)
- ・早起き (生活習慣が整い、朝から元気に過ごせるようになった。)

【中学校の項目と内容】

順位	一番心に残っていること	自分自身の成長にどのように影響したか (主なものと際立った内容の紹介)
1位 127人 (35%)	部活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とても厳しかったが目標のために妥協しない強さが身についた。</li> <li>・部長として責任感がつき、最後の大会で3点差で負けた悔しさが、その後のやる気につながった。</li> <li>・最後までやり切ること、努力する大切さを学んだ。</li> <li>・とにかく頑張る、本当に頑張って、一番忙しくて楽しくて、大変できつかったけれど、本当に楽しかった。</li> </ul>

キャリアパスポートからとらえる今後の学校教育の方向性

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・顧問と出会い、教師をめざすきっかけとなった。</li> <li>・全力で取り組み、忍耐力、礼儀が身についた。</li> <li>・マネージャーだったが、立場に関係なく怠けている人に迷惑をかけて怒られた申し訳なさ。</li> <li>・上下関係の難しさと距離感を意識すること。</li> </ul>
2位 45人 (12%)	体育祭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応援副団長として人前に入る恥ずかしさがなくなり自信をもてるようになった。</li> <li>・運動が苦手でも一生懸命に応援している姿で頑張ることができた。</li> <li>・組体操を本番で成功させ、諦めない大切さを学んだ。</li> <li>・応援で好きな人の学ランを借りることができた。</li> <li>・運動の好き嫌い関係なく各活動で楽しめた。</li> <li>・自分のデザインが採用されて、嬉しくて自信となった。</li> </ul>
3位 32人 (9%)	合唱コンクール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちで工夫した練習を毎放課に練習をしたが、これが今のグループ活動をする際に役立っている。</li> <li>・ピアノオーディションに理不尽に落とされ辛かったが、これ以上辛いことはないと思え、頑張れた。</li> <li>・努力を続けることで結果が出るとは限らず、最後までやる諦めない気持ちを学ぶことができた。</li> </ul>
4位 24人 (7%)	修学旅行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史にまつわる建造物を見て、生を知ることができた。</li> <li>・平和記念公園に行き、戦争に興味をもつきっかけとなった。</li> <li>・新幹線が地震で止まり、急遽予定変更となったが、臨機応変に切り替える大切さを学ぶ。</li> </ul>
5位 22人 (6%)	友人関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の話を聞くようになった。</li> <li>・親友と出会え、今でも夢を高め合っている。</li> <li>・人との関わり方を学んだ。</li> <li>・親友が不登校になったが、登校しようと努力する姿を見て、人を支えるようになりたいと思った。</li> </ul>
6位 21人 (6%)	高校受験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標のために頑張ることで成し遂げる経験を得た。</li> <li>・ある先生との出会いで数学が好きになり、その後の大学受験でも数学で自信がもてるようになった。</li> <li>・落ちたけれど、推薦を出してもらえたことで自分に自信がもてるようになった。</li> <li>・第1志望に落ちたが、置かれた場所で頑張ることを学んだ。</li> </ul>
7位 17人 (5%)	生徒会活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなの前で話すことが苦ではなくなり、自信をもって行動することができるようになった。</li> <li>・委員長としてリーダーを務め、これまで自信のなかった自分に自信がわいてきた。</li> </ul>
8位 13人 (4%)	先生との出会い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生に学級委員を薦められ、引っ込み思案だったのを自信に変えてくれた。</li> <li>・認められたことで自己肯定感が得られた。</li> <li>・今の自分に繋がるきっかけとなった先生と出会い、将来の夢が決まった瞬間だった。</li> </ul>

9位 12人 (4%)	学級活動・生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的な取り組みの大切さ。</li> <li>・学級旗づくりでみんなと協力する楽しさ。</li> <li>・色々な学級レクをみんなで企画し実施した楽しさ。</li> </ul>
10位 11人 (3%)	職場体験学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会に出る大変さが分かり、仕事のチームワークや対応が分かった。</li> <li>・新鮮でとにかく楽しく、なかなか味わうことのできない体験だった。</li> <li>・仕事に対する価値観が変わった。</li> </ul>
	授業関係 (7人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本史が好きになり、教師になってこんな風に教えたいと思った。</li> <li>・成績が悪化したが、諦めず頑張ることを学んだ、</li> <li>・毎回のテストを頑張り、計画的に物事を進める大切さを知った。</li> <li>・道徳の授業で、いじめ自殺のご遺族の話聞き、命の大切さを学んだ。</li> <li>・朝学は大変だったが、一番力がついたら実感できた。</li> </ul>
	文化祭 (7人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備で学級が対立したことで、物事を俯瞰的に見ることができるようになった。</li> <li>・将来の夢を発表する代表となり、自分のなりたいものが明確になった。</li> </ul>
	自然教室 (6人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カレーを班全員で作作り、協力する大切さを感じた。</li> <li>・協調性を身につけることができた。</li> </ul>
	いじめ (4人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人と関わることが怖くなったが、人や周りを良く見るようになるようになった。</li> <li>・嫌がらせを受けていたが、相手の立場にたって寄り添えるようになった。</li> <li>・困ったときに周りに話す大切さを学んだ。</li> </ul>
	不登校 (2人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校の子がいたがそれに気づかず、その背景にいじめが起きていたことが分かった。</li> <li>・心の疲労で学校を休んだが、世の中には理不尽なことも上手く聞き流すのが時に必要なことを知った。</li> </ul>
	けが (2人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリを諦めずにしたことで、努力は報われることが分かった。</li> <li>・じん帯損傷でリレーに出られなかったが、第三者の視点で物事を見る、状況判断ができるようになった。</li> </ul>
	アニメとの出会い (2人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人生楽しんで笑ったもの勝ちと思えた。</li> </ul>
	卒業式 (2人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業アルバム題字を担当し、書道を続けようと思った。</li> <li>・友達を大切にしようと思った。</li> </ul>
	その他 (各1人)	<p>転校、推し活、外人との出会い、日本人学校、人権集会、海外研修、ヤギ飼育、オリエンテーション合宿、夏休みの宿題</p>

- ・日本人学校 (文化の多様性について興味をもてた。)
- ・ヤギの飼育 (赤ちゃんが誕生する瞬間を見たとき、とても感動した。)
- ・夏休みの宿題 (一切提出しなかったが、何とかなるレベルには限界があることを学んだ。)

【高等学校の項目と内容】

順位	一番心に残っていること	自分自身の成長にどのように影響したか (主なものと際立った内容の紹介)
1位 139人 (38%)	部活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かけがえのない友人ができ、他者を認め協力し合う力がついた。</li> <li>・地道でも長年続け努力する大切さを学んだ。</li> <li>・努力が必ず報われるとは限らないことを知ったが、努力する姿を友人が見ていてくれて支えてくれた。</li> <li>・部活を一から改革するのは大変だったが、行動力と思考力が成長した。</li> <li>・困難を乗り越える力がついた。</li> <li>・自分の勝ちにこだわっていたが、チームの勝ちを意識して人を信頼することを学んだ。</li> <li>・津軽三味線部でたった一人の男子部員として3年間続けた。</li> <li>・失敗した後の行動の仕方。</li> <li>・学業と両立する大切さ。</li> <li>・マネージャーとして陰で支える仕事と人間関係づくりを学んだ。</li> <li>・オーディションに落ちまくり、できない人の気持ちがよく分かるようになった。</li> <li>・自分の限界に挑戦する大切さ。</li> <li>・辛い練習に耐えたことでインターハイでチームが優勝し、些細なことでもくじけない心をもった。</li> </ul>
2位 39人 (11%)	文化祭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画する人によっても温度差があり、みんなをまとめる大変さがあった。そこから人に寄り添う大変さを知った。</li> <li>・バンドでドラムに挑戦した。</li> <li>・メイド喫茶で挨拶などの練習をし、熱中してやりきる楽しさを味わった。</li> <li>・コロナ禍の難しい時期に運営方法についてたくさん意見を出し合うことの大切さ。</li> </ul>
3位 38人 (10%)	大学受験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親ともめたけれど、意見をぶつけ合うことで仲が深まった。</li> <li>・成績が上がっていくことで楽しく感じることができた。</li> <li>・失敗することはよいこと。</li> <li>・途中で諦めないこと。</li> </ul>
4位 26人 (7%)	友人関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支え合う大切さ。</li> <li>・大親友(悪友)をはじめとした最高の友人との出会い。</li> <li>・多様性を実感し、付き合い方を学んだ。</li> <li>・自分の良くない点を指摘してくれる人と出会い、人格形成につながった。</li> <li>・自分が生きる理由を見つけることができた。</li> <li>・彼氏ができ、その人中心に自分の世界が回っていた。</li> <li>・一生の友達ができ、助け合って大切にしようと思った。</li> </ul>
5位 19人 (5%)	体育祭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーとしてみんなを引っ張っていく大変さと協調性を学んだ。</li> <li>・応援団幹部として、大勢を動かす難しさと楽しさを知った。</li> <li>・夏休みからみんなで頑張ってダンスの練習をしたのが一番の青春となっている。</li> <li>・夏休みからみんなで団旗づくりをし、協力して頑張る大切さを学んだ。</li> </ul>

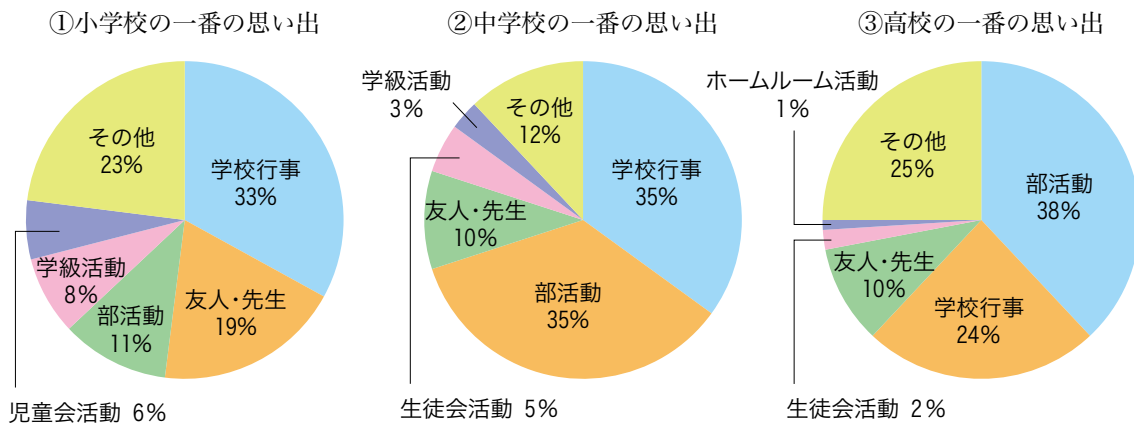
6位 18人 (5%)	修学旅行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異国文化を学ぶ面白さを感じた。</li> <li>・班員と協力して何事も決め、自立心が育った。</li> <li>・気持ちのモチようで変わる。楽しんだもの勝ち。</li> </ul>
7位 12人 (3%)	コロナ自粛	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制限が多い中、全校が楽しめる企画をしたことで、リーダーシップが身についた。</li> <li>・SNSで友達を毎日交流をし人との繋がり大切さを学んだ。</li> <li>・コロナで心に残っている思い出はあまりないが、学級での何気ない会話がとても楽しく思えた。</li> <li>・遊びたいとき遊べる大切さを学んだ。</li> <li>・できなかったことがたくさんあったが、意見を出す大切さ。</li> <li>・修学旅行がなくなり愛知県内で行きたいところをピックアップしたことで、愛知県をより理解することができた。</li> <li>・普段学校へあまり行きたくなかったが、本当は学校に行けることが幸せだと思った。</li> <li>・当たり前前日常に感謝できるようになった。</li> <li>・オンライン授業で普段の学校生活を大切にしようと思えるようになった。</li> <li>・当たり前前が続かないことを知った。</li> <li>・ネット情報がすべて正しいわけではなく、自分の判断が一番大切だと思えるようになった。</li> <li>・ネガティブ思考からポジティブ思考になろうと思えるようになった。</li> </ul>
8位 11人 (3%)	先生との出会い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「分からないことを聞くことは恥ずかしいことではない」と言われ、色々なことを人に聞けるようになった。</li> <li>・学校の先生になりたい思いがより強くなった。</li> </ul>
9位 9人 (2%)	授業関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間かけて個人研究を行い、今まで学んだことが活かすことができている。</li> <li>・土曜授業は泣くほど嫌だったが、そのおかげで勉強の習慣ができ、大学でも好成绩をとれている。</li> <li>・家庭内暴力で兎相が入り、オール1の成績だったが、これから先は自己責任の世界だと痛感した。</li> <li>・生物の授業で学年で1位を2回とり、将来役立たないと思っても一生懸命勉強する大切さ。</li> <li>・1限から8限の授業で精神が鍛えられ、努力する大切さを学んだ。</li> </ul>
10位 8人 (2%)	生徒会活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人前でハキハキと喋り、思いを伝える難しさを経験できた。</li> <li>・リーダーシップをとれるようになった。</li> <li>・生徒会執行部として、リーダー性と積極性を身につけることができた。</li> </ul>
	球技大会 (5人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンドボールの経験者として初心者にあれこれ教えたことから、教え方の分析の仕方や人に合わせた指導の組み立て方。</li> <li>・みんなで声掛けをして雰囲気づくりをしていく大切さを知った。</li> </ul>
	HR活動 (4人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校則改正など企画力と実行力を学んだ。</li> <li>・集団内での立ち回り方を身をもって覚えた。</li> </ul>
	留学 (4人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の弱みを知ることができ。多くの人に支えられている感謝の気持ちがもてた。</li> <li>・新たな考え方が生まれてきた。</li> </ul>

キャリアパスポートからとらえる今後の学校教育の方向性

いじめ（3人）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間関係の難しさを知ることができた。</li> <li>・あの時より辛い時はないと思って、何ごとにも頑張ることできるようになり強くなった。</li> <li>・周りに同じような子がいたら声をかけることができるようになった。</li> </ul>
卒業式（3人）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の一番大切な行事で、実行委員を3年間務めた。</li> </ul>
ボランティア活動（2人）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の絵本を英訳したことで、英語に興味をもち、もっと学びたくなった。</li> <li>・トラブルは成長の糧ということを学んだ。</li> </ul>
読書（2人）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙力が身についた。</li> <li>・分厚い本を読み切った達成感から本嫌いではなくなった。</li> </ul>
コンクール（2人）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナで定期演奏会がなくなった。</li> <li>・日頃の練習を積み上げる大切さ。</li> </ul>
その他（各1人）	講演会、ひとりぼっち、宿題、遠泳、不登校、韓国好き、アルバイト、いじめ、語学、性被害、アニメ、特になし

- ・性被害（人は信用しすぎないこと。勤で人の善悪が分かるようになった。）
- ・不登校（担任と考え方が合わず登校拒否をした。知らず知らずのうちに自分の価値観が確立されていったことに気づいた。）
- ・「特になし」と回答した学生（小→小1の時に6年の人と学校を回ったこと。中→人権教育で奈良にある水平社自博物館を回ったこと。）
- ・総学（小→どれも楽しかった。中→記憶にないから楽しくなった。高→勉強や進路、行事の話し合いだった。）
- ・ひとりぼっち（人との距離感の取り方が分かった。）

【校種別の分野別割合】



## 4 集計の検証

### (1) 小学校段階 一番の思い出とキャリア形成

「一番心に残っている思い出」の第1位が運動会であり、自分自身の成長に影響した競技の多くが組立体操であった。筆者はこの結果に驚愕した。その理由は、小学校勤務時代、子供たちの卒業文集の内容の多くが、修学旅行、学級での出来事、友達関係などであり、運動会を思い出としたものはほとんどなかったからである。学生は卒業して数年後、運動会から、達成感や協力性を学んだ点が自分の成長の糧となったと自己評価していることが分かる。少人数ではなく全校という異年齢集団の大集団の中で培われた点に注目したい。つまり、集団の一員としての役割や責任を自覚する活動が、自己のキャリア形成となる「自己理解・自己管理能力」の育成に役立っていたのである。特別活動のめざす目標のひとつである「自己実現」の育成に、学校行事のひとつであり、異年齢集団活動としての運動会が関わっていたのである。

次に、運動会とは僅差で第2位であったのが友人関係である。友達と休み時間に遊ぶことを通して、人間関係形成の資質・能力を伸ばしている理由が多かった。つまり、人との関わり、仲間づくりの仕方、コミュニケーションのとり方などを通して、自己のキャリア形成となる「人間関係形成・社会形成能力」の育成が友人関係から図られている。ここでもまた、特別活動のめざす目標のひとつである「人間関係形成」の育成が友人関係から培われているのである。

小学校の場合、他校種と比べると、学級内の活動の思い出が多く、また多岐にわたった思い出が多い。このことから、小学校段階でこそ多くの体験活動の経験を重視する必要があることが分かった。また、グラフ①「小学校の一番の思い出」の教育活動の分野別では、学校行事33%、友人・先生19%、部活動11%の3項目が全体の約3分の2を占めている。さらに、学校行事が全体の3分の1を占め、集団の一員を自覚した活動が展開される特別活動がキャリア形成の育成に大きな影響力と有効性があると判断できる。

### (2) 中学校段階 一番の思い出とキャリア形成

中学校の第1位は想定していた通り、部活動であった。自分で選択した入部であるため最後までやり抜く粘り強さや努力の必要性を自らでとらえ、キャリア形成に繋げている。また、異年齢集団から人間関係の在り方を学び、自分自身の技能や能力が高まっていく喜びを味わうことができている。第2位の体育祭は、応援団の活動からリーダー性と団結力の素晴らしさを学んだという理由が多く、生徒会活動や学級活動も同様であった。第3位

の合唱コンクールは学級の団結を図る活動として、中学校では最も団結意識の高まる学校行事であることは筆者が中学校勤務の際に肌で感じており、納得の第3位と感じている。しかし、現在の高校1・2年生の多くはコロナの影響で合唱コンクールを経験していない。彼らが中学校生活を振り返る際、何を挙げるのであろうか。

中学校の場合、異年齢集団活動や学級集団での活動から、自分の考えや立場を考慮し、リーダーとして、またフォロワーとしてどのように集団や活動に関わればよいのという課題対応能力が高まっていく段階でもある。第10位の職場体験学習は、中学校ならではの活動であり、「仕事に対する価値観が変わった」という記述からも、キャリアプランニング能力が培われていることが分かる。また、グラフ②「中学校の一番の思い出」の分野別から、学校行事35%、部活動35%の二つの活動だけで全体の70%を占めており、特別活動の学校行事と部活動は中学生のキャリア形成を育む中核となる活動である。

### (3) 高校段階 一番の思い出とキャリア形成

「一番心に残っている思い出」の第1位は想定した通り部活動であった。中学校から続けていて「地味でも長年続け努力する大切さを学んだ」という理由が多く、そのことから自己管理能力が育まれていることが分かる。第2位が文化祭であるが、リーダー性という観点からだけでなく、自分たちで企画運営する課題対応能力を高め、さらに磨きをかけているのである。

高校で着目したいのが、第7位のコロナ自粛である。今の大学生は「コロナ世代」と表現してよいほど、新型コロナウイルス感染症による休校、行事の中止や自粛、オンライン授業、昼食の黙食など、非常事態下で学校教育が行われた数年間を過ごした。しかし、今回の調査から生徒たちはコロナ自粛をマイナスとしてとらえておらず、プラス思考でとらえていたことが分かった。「コロナ禍の難しい時期に文化祭の運営方法についてたくさんの意見を出し合う大切さ」という制約された教育活動から課題対応能力を発揮して文化祭の実施を目指していたことが分かった。また、「当たり前の日常に感謝」、「制限が多い中、楽しめる企画をした」、「オンライン授業で普段の生活を大切にしようと思った」などと、当たり前の生活への感謝や創意工夫の必要性、次のステップへの励みにしようとする前向きな考え方をもっていた、学生たちのよりよい学校生活を築き上げようとする逞しい姿を知ることができ嬉しくなった。

高校の場合、他校種と比べると、部活動の思い出が吐出している。グラフ③「高校の一番の思い出」の分野別からは読み取れないが、コロナ自粛（3%）が生徒会活動やホーム



ルーム活動を抑えて実質の第4位となる。教育活動の分野別では、部活動38%、学校行事24%の2分野で全体の約6割を占めている。その活動から、自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力を高めており、部活動と学校行事がキャリア形成の柱となっていることが分かる。

#### (4) 小中高校の比較検証

【校種別思い出項目 (表①)】

	小学校	中学校	高校
記載項目数	35	27	30
項目第1位	運動会 (13%)	部活動 (35%)	部活動 (38%)
項目第2位	友人関係 (13%)	体育祭 (12%)	文化祭 (11%)
活動分野別第1位	学校行事 (33%)	学校行事 (35%)	部活動 (38%)
活動分野別 第1位・第2の合計割合	学校行事 (33%) 友人・先生 (19%) 計52%	学校行事 (35%) 部活動 (35%) 計70%	部活動 (38%) 学校行事 (24%) 計62%
校種ならではの項目	マラソン大会 (2%)	合唱コンクール (9%)	コロナ自粛 (3%)
全体に占める特別活動の割合	47%	43%	27%

活動分野別の学校行事については、儀式的、文化的、健康安全・体育的、遠足(旅行)・集団宿泊的、勤労生産・奉仕的の5つの学校行事の合計数である。校種を問わず、思い出に残っている教育活動は学校行事が突出している。児童会・生徒会活動や学級活動及びホームルーム活動も含んだ特別活動全体の割合では、小学校47%、中学校43%と、義務教育段階の特別活動の重要性が数値からとらえることができる。

【キャリア形成を伸ばす教育活動 (表②)】

資質・能力	ベスト10入りした思い出項目
人間関係形成・社会形成能力	運動会、体育祭、合唱コンクール、友人関係、部活動、学級活動・学級生活、自然教室、生徒会活動
自己理解・自己管理能力	友人関係、部活動、先生との出会い、学芸会、コロナ自粛
課題対応能力	修学旅行、文化祭、コロナ自粛
キャリアプランニング能力	授業関係、高校受験、職場体験学習、先生との出会い

資質・能力の4観点については、キャリアパスポートで紹介されているキャリア形成から伸ばす4つの資質・能力であり、今回の調査結果の「自分自身の成長にどのように影響

したか」に記載された内容を筆者なりに当てはめてみた。

### 【表①と表②の分析】

学校行事が最も思い出の項目として突出している。学校行事は、キャリア形成で伸ばしたい4つの資質・能力の観点で踏まえていることが分かる。小中高校で思い出ベスト10入りした思い出の項目をキャリア教育で伸ばしたい資質揚力に分類してまとめた表②からは、圧倒的に「人間関係形成・社会形成能力」を伸ばす思い出が多いことが分かる。また、その項目のほとんどが学校行事で占めている。つまり、異年齢集団による活動、グループよりも大人数での活動、人との関わりのある活動が、小中高校時代の足跡として一番心に残っていることが分かった。

部活動については、高校と中学校ともに35%前後の割合であり、自己管理能力と人間関係形成能力を伸ばすのに役立っている。学校教育において、自らの自由な選択で取り組むことができるのが部活動である。そこでは自己管理能力を発揮し、集団内での人間関係も意識した活動をするからこそ、思い出の上位になるのである。

学校行事以外で注目したい思い出の項目は、友人関係、先生との出会い、コロナ自粛の3点である。友人関係から人間関係形成能力を伸ばした理由として、小学校では休み時間の遊び、中学校では親友ができる出会い、高校では一生支え合える関係、というのが主であった。ベスト10に入っていないが、いじめ項目では、「いじめられている子の気持ちが理解できるのでいじめをしない」というとらえ方から、人間関係形成能力と自己管理能力を伸ばしているケースもあった。また、先生との出会いの思い出の項目のほとんどは、今後の自分の生き方の指針とする確固たる師弟関係を感じる。しかし、「とにかく嫌いだった」という反面教師の理由が気になった。そのように思われない教師が教育現場に必要であり、確固たる師弟関係が築くことのできる心構えを忘れない教師をめざす学生を本学で育成したいと強く感じた。また、コロナ自粛は学校行事の中止や縮小がなされたが、当たり前前のことが当たり前前にできる日常生活への感謝の念を抱くようになっている。つまり、コロナ自粛を悲観的にとらえていた児童生徒ばかりではなく、創意工夫して生活すればよいか、前向きに考えるにはどうすればよいのかなどの課題対応能力を伸ばしていたケースがあることが今回の調査から明らかになった。

## 5 学生の思い出から見えてくる今後の教育活動の方向性へのヒント

今回のキャリアパスポートにおける「学生の思い出の振り返り」集計結果から今後の教

育活動の方向性として重視したい3点を以下のように考える。

- ①特別活動の着実な実施とその時間確保
- ②中学校における校内部活動の継続と活動内容の検討
- ③キャリア形成を伸ばすための資質。能力と教育活動との整合性を図った個別最適な学びへの支援

この3点を「令和の日本型学校教育」の主だった方針(1)~(3)に追加検討することが、今後の教育改革の方向性へのヒントになると考えた。

#### (1) 急速に変化する時代の中で育むべき資質・能力（学習指導要領の着実な実施、ICT活用など）について

「①特別活動の着実な実施とその時間確保」を加え、その取り組みを推奨する施策を打ち出す。今回の調査結果から、特別活動の重要性が明らかになった。特別活動に関わる思い出が、小中高校の全ての校種に多いという観点から、「特別活動の着実な実施とその時間確保」は必須であり、その具体的施策を打ち出す必要がある。教育現場では、特別活動を教科の時間、行事の準備、学年集会などに代替する風潮がありがちで、授業時間の確実な確保が第一に重要となる。次に、特別活動の実践、特に学校行事は企画運営の時間が必要であるため、放課後の活動の時と場の設定保障をする配慮が必要である。さらに、学校経営案や年間教育計画案に各学校の実態に応じた創意工夫された活動内容を加え、教職員全員の共通認識と協働体制の構築に努めたい。

また、各教科領域の学習指導要領の内容が豊富過ぎ、多種多様な〇〇教育の推進というあれもこれも押し付けられたイメージを抱く教育現場の教師たちは筆者を含め多くいる。学習指導要領の着実な実施には賛成であるが、教育現場では時間数の圧倒的な不足という現実がある。そのため、特別活動や道徳、総合的な学習（探究）の時間が軽視される傾向がありがちである。例えば、教育研究先進校である附属小学校で、君が代を授業で扱わなかったり毛筆を硬筆に代替した書写の授業であったりと、学習指導要領を遵守しないことがニュースとして報道された。その学校を擁護する意図はないが、研究先進校として、探究学習やICTを活用した授業などに取り組みれば、必然的に学習指導要領に準拠した授業時数が不足する。その弊害がこのような出来事を引き起こしているのではないかと推測する。学習指導要領の内容が机上の空論になってないか、内容が豊富過ぎないかなど、今回の調査結果を受け、キャリア形成の中核となる特別活動の重視を前提とした次期学習指導要領の改訂に向けた再検討の必要があることが分かった。

- ・方向性の追加→特別活動の着実な実施と時間確保、次期学習指導要領の内容の見直しとキャリア教育の要となる特別活動の重視

## (2) 「日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動き（働き方改革、GIGA スクール、少子化と多様化など）について

「②中学校における校内部活動の継続と活動内容の検討」を加え、その取り組みを推奨する施策を打ち出す。

働き方改革のひとつに部活動の見直しがある。中学校の部活動の方向性として、地域移行型、地域ブロック型（複数の中学校で一つの部活動実施）の二つが全国の中学校現場で検討され、それに基づいて実施する方向性である。今回の調査結果から中学生のキャリア形成にとっての校内部活動は重要な活動であることが判明したことから、校内部活動を地域の外部指導者で実施する方向性が相応しいと判断する。

しかし、中学校の部活動を教師サイドの働き方改革と生徒サイドのキャリア形成育成の両視点から部活動の在り方をとらえたい。確かに教師の勤務時間などの働き方に影響のある部活動ではあるが、部活担当希望制や外部講師採用制などは予算や活動施設面、教師の意識変革などを通して解決できるであろう。しかし、生徒にとって一生の思い出のひとつとなる中学校の部活動は、学校内での人間関係からの学びや顧問との出会い、チームとしての団結など、同じ学校の生徒同士だからこそ学べる要素が多いと今回の調査で感じた。クラブチームへの参加でも同様の学べる要素はあるが、教師が関わっていくことで学校生活全体を通じた効果的なキャリア形成の高まりを図ることができると思う。学校内へ地域の外部指導者が来校した技能面の指導は、児童生徒にとってその効果は絶大であろう。同時に、生徒の人格形成やキャリア形成を見通した指導や配慮は教師の支援効果も的確で相応しいものになる。外部講師を招聘する場合は、練習内容を地域外部講師、支援方法を教師が担当するという仕分けを明確にした部活動の実施が望ましいと考える。

地域外部講師による不祥事への懸念や確保の困難さ、働き改革からの教師の関わり方や生徒個々への支援方法など課題は山積である。しかし、中学校の校内部活動の継続が望ましいことが、今回の思い出調査結果から分かった。複数の中学校が合同で行うブロック単位実施の場合は、移動手段、時間や場所、外部指導者、愛校心低下などの課題があり、これらのことを鑑みると、校内部活動の継続が前提とした中学校の部活動改革が相応しいと考えている。生徒の願いや心身の成長を考慮したキャリア形成の視点から中学校の校内部活動の在り方を検討することが急務であろう。

さらに、中学校の部活動を勝利至上主義から脱却させ、人格形成重視主義への方向転換が相応しいのではないか。いわゆる「ゆる部活」の推奨である。ネーミングからお遊び部活動のイメージを抱くが、技術の向上を図りつつレクの要素を兼ねた遊び心のある活動内容を随所に組み入れることである。これは技術指導を専門とする外部講師の理解を得て、教師が実施方法や生徒の個々の支援を教師サイドで決め、その方針に従って外部講師に技術面を中心とした練習内容を担当してもらう手法が相応しいと考える。

- ・方向性の追加→中学校の校内部活の存続と継続、働き方改革の視点と児童生徒のキャリア形成の視点による部活動改革、勝利至上主義から人格形成重視主義の中学校の部活動

**(3) 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿(アクティブラーニングやインクルーシブ教育システムなどの子供の学びとしての個別最適な学びと協働的な学びの実現、質の高い教職員などの姿、子供の学びや教職員を支える環境など)について**

「③キャリア形成を伸ばすための資質・揚力と教育活動との整合性を図った個別最適な学びへの支援」を加え、その取り組みを推奨する方策を打ち出す。

小学校の段階は休み時間の遊びから人間関係形成を、中学校と高校の段階は小集団より学級や学校全体の大集団から人間関係形成を学ぶことが分かる結果であった。これを受け、協働的な学びについては、小学校段階では小集団での活動、中学校と高校は小集団よりも大集団での活動がキャリア形成の育成には相応しく効果が高いことが判明した。

さらに、特別活動を要としたキャリア教育の展開をするために、「キャリア形成を伸ばす教育活動(表②)」で述べたように、キャリア形成を育成する4つの資質・能力でそれぞれの教育活動との整合性を図ることが必要である。そうすることで、教師は一人一人の児童生徒の個性を的確に把握した上で、キャリア形成がどのように伸びていくかを想定した個別支援計画を立案することができる。このことが、子供の学びが個別最適な学びの礎となっていくのである。特別活動の授業内でキャリアパスポートを活用し、記載された自己の思い出の振り返りや願い、評価などを生かさせることが教師支援であり、その支援が児童生徒の個別支援計画となっていく。

- ・方向性の追加→小集団や大集団で行う協働的な活動の重視、キャリア形成を伸ばすための資質・能力と教育活動との整合性、個別最適な学びのための個別支援計画の立案

## おわりに

学生たちの「キャリアパスポートによる思い出の振り返り」調査は非常に興味深かった。例えば、「小4で宿題をやらず泣いていたら、先生からあなたの涙は必要ないと言われ、泣いて許されなく初めてしっかりと怒られ、課題は必ず提出するようになった」と10数年前の教師の一言がその学生のキャリア形成の礎になったのである。その場は厳しい指導であっても、その後に役立った指導となっており、この出来事は、教師の指導のあり方の参考になるものである。その反対に、「いじめがあったことに気づかなかったことが、傍観者として加害者扱いを先生からされた。先生が必ずしも正しいわけではないこと、いじめは気づかないこともあることを学んだ」という教師の不適切と思われる指導が心に残ることもあり、教師の指導のあり方の難しさを感じた。また、「はじめに」で紹介したKさんの強烈ないじめの思い出の授業感想を読み、キャリアパスポートにそれが書かれなかった疑問が本稿を執筆するきっかけとなった。それがなかったら本稿執筆に至らなかったことを鑑みると、Kさんに感謝しなければならない。

学生365名のキャリア形成がなされた「キャリアパスポートによる思い出の振り返り」をとらえたことで、今後の学校教育活動の方向性が見えてきた。思い出を振り返っている活動のほとんどは、デジタルやICTとは関係のない、ある意味アナログの活動によって、対面による人と人の関わり合いに関する人間関係に関するものばかりであった。「流行と不易」の言葉通り、Society5.0の実現に向けた時代になろうとも、児童生徒は学校行事と部活動から心身共にキャリア形成しながら成長することを再認識した。今後もキャリアパスポートに記載された小中高校の思い出の集計を積み重ねていくことを通し、令和の日本型教育の方針となっている教育活動を見つめ直していきたい。

最後に、今後も本学の学生が「なりきり教師」を意識して勉学に励む支援を授業で行っていけるよう励む決意であることを記して終える。

## 参考文献

文部科学省 HP の「令和の日本型学校教育」、「キャリアパスポート資料」